

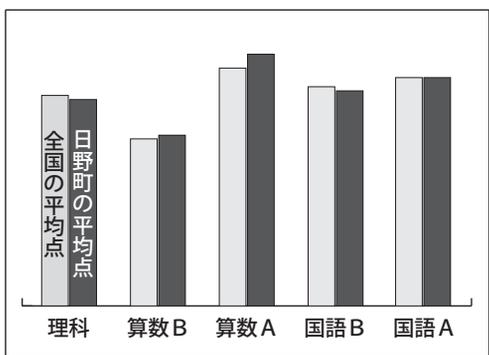
全国学力・学習状況調査 の結果をお知らせします。

児童、生徒への指導の充実や、学習状況の改善などに役立てるため、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、『全国学力・学習状況調査』が今年4月に行われました。

毎年行われている国語、算数・数学の問題A（知識に関する問題）と問題B（活用に関する問題）の調査に加え、今年度は3年ぶりに理科の調査が行われました。また、質問紙調査（生活習慣、学習意欲・環境などの調査）も、引き続き実施されました。

小学校では

▼学んだ知識やそれを活用する力が十分に身につけています



算数では全国平均より高く、国語と理科では、ほぼ

同率という結果になっています。

全国平均より高い結果となったものは、国語では、「漢字を正しく読む(100%)」「目的に応じて、中心となる語や文を捉える(80・0%)」など、算数では、「繰り上がりのある加法(100%)」「角のおよその大きさを捉える(100%)」「平行四辺形を構成する辺の組み合わせを理解する(96・0%)」などです。また、理科では、「調べた結果を視点をもって考察して分析する(92・0%)」「打ち水の効果について、グラフを基に考察して分析する(92・0%)」など

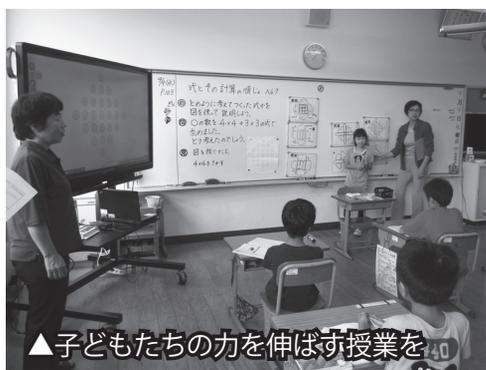
があります。

低い結果になったものは、国語では、「新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える(0・0%)」「目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く(12・0%)」など、算数では、「示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択する(32・0%)」「比較量と割合から基準量を求める(12・0%)」「根拠となる図形の性質を記述する(16・0%)」などです。また、理科では、「析出する砂糖の量を、グラフを基に考察し内容を記述する(20・0%)」「試行した結果を基に自分の

考えを改善する(40・0%)」などがあります。

全体的にとらえると、国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の力は十分に身につけている反面、「書くこと」に課題があるといえます。算数では、すべての領域で力が身につけています。そして、理科では、「生命・地球」の領域は理解できていますが、「物質・エネルギー」の領域に課題があります。

▼「思考力」「判断力」「表現力」をさらに伸ばす授業づくりを進めます



教科に関する質問紙調査から、肯定的な回答の割合が高い項目としては、「国語、算数、理科の勉強は好き」「国語、算数、理科の

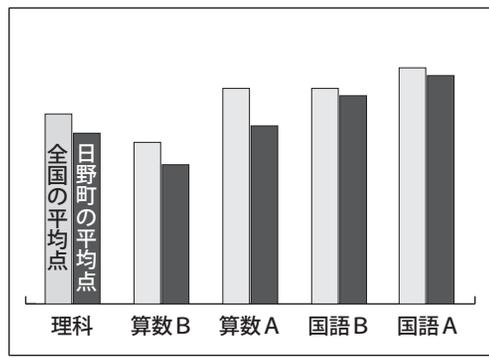
勉強は大切だと思う」「勉強したことは将来役に立つと思う」「説明やわけなどを最後まで書こうと努力した」ことなどがあげられます。逆に割合が低い項目として、「段落や話しのもとまりごとの内容を理解しながら読んでみる」「公式やきまりのわけを理解しようとしている」「自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」ことなどがあげられます。

各教科の問題形式別の正答率を見ても、選択式のものには各教科とも全国平均並み、または、それ以上であるのに対し、国語、理科では、短答式、記述式での正答率が全国平均より低くなっています。

今後、引き続き一人一人のつまづきや学級、学校としての課題を分析し、すべての児童に基礎的・基本的な内容を確実に習得させていく必要があります。また、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力をさらに伸ばしていくことができ、授業づくりを進めていく必要があります。

中学校では

▼数学、理科の基礎的基本的事項の定着に課題があります



国語A、Bについては、全国平均正答率よりやや低い結果でしたが、数学A、Bおよび理科については、かなり低い結果となっております。

国語の問題別に見ると、漢字の読みは全国平均を大きく上回っている反面、漢字を正しく書く力は下回っています。また、書くことについてはほぼ全国平均並みですが、文章構成や推敲する力の定着には課題があります。

正答率が高い問題は、「漢字を正しく読む(100

%)」「語句(気象)の意味を理解し、適切に使う(100%)」「伝えたい事実を明確に書く(89・3%)」「表現の工夫について自分の考えをもつ(89・3%)」などがあります。

一方、正答率が低いものは、「語句(たなびく)の意味を理解し、適切に使う(28・6%)」「単語の類別について理解する(35・7%)」「根拠を明確にして自分の考えを書く(14・3%)」などがあります。

数学では、正答率の低い生徒の割合が30%程度であり、基礎的基本的事項の定着に課題があります。

正答率が高い問題は、「比の意味を理解している(85・7%)」「事象を数学的に表現し、その意味を理解する(71・4%)」「事象を数学的に表現し、その意味を解釈する(71・4%)」などがありません。低いものは、「数量の関係を文字式に表す(7・1%)」「場合の数を求める(46・4%)」「結果を数学的な表現を用いて説明する(7・1%)」などがあります。

理科では、「知識」を理

解する力よりも「活用」する力の方が、よい結果となつていきます。問題別に見ると、公式を用いた計算問題や割合計算に課題があります。

正答率が高い問題は、「天気の記事から風力を読み取る(78・6%)」「風向計を使って風向を観測する(60・7%)」などがあります。低いものは、「雲の成因を正しく説明する(10・7%)」「オーロムの法則を使って、抵抗の値を求める(28・6%)」などがあります。

平成24年の結果(小学校6年時)と比較すると、国語では、全国平均との差にほとんど変化は見られませんが、数学(算数)と理科では、若干差が開いています。

▼授業改善や個に応じた指導の充実を図り、基礎的基本的事項の定着を図ります

各教科に関する質問紙調査から、肯定的な回答の割合が高い項目としては、「国語の勉強は大切だと思う」「国語で学習したことは将来役に立つと思う」「理科の勉強は好き」などがあげられます。逆に割合が低い項目

として、「国語の勉強は好き」「自分の考えを話したり書いたりしている」「数学の勉強は好き」「数学の授業はよく分かる」「理科の授業で、自分の考えを説明したり発表したりしている」ことなどがあげられます。

今後、国語では、「読解と表現を関連させる」「文章や資料を活用して、思考し、まとめていく」「まとめたことを発表し、感想や意見を述べ合う」ことなどに取り組んでいく必要があります。



△基本的な力を養う授業に取り組む

数学では、「基礎・基本を定着させる」「目的や根拠を明らかにする」「数学的考察と具体的事象との関連を図る」ことなどに取り組んでいく必要があります。

す。理科では、「ねらいに即した評価問題を設定する」「観察や実験を充実する」「観察・実験したことを考察し表現する」ことなどに取り組んでいく必要があります。

児童、生徒の状況は

▼「他者を思いやる心」「物事を最後までやり遂げようとする意識」が育っています

質問紙調査の中で、小学生では、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらの時刻に寝たり起きたりしている」などの項目において肯定的な回答が高い数値を示している一方で、中学生ではそれらの数値が低くなっており、基本的な生活習慣に課題があります。

「友達の話や意見を最後まで聞く」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」「いじめは、どんなことであってもいけないことだと思う」などの項目においては、肯定的な意見の割合が高く、相手を大切に思う心が育っていると思われまます。さらに、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」の割